

平成26年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
学力の育成	(全校レベル) (1) 規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める	評価指標 (1) 生徒の授業満足度調査 80%以上 (2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上 (3) 生徒の成績状況調査 年1回以上 (4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 80%以上 (5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 C-Eランク 75%以上 (6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回以上 授業力向上職員研修会 1回以上	評価指標の達成度 (1) 生徒の授業満足度調査 89.3% (昨年比 +4.3%) (2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27.3時間 (3) 生徒の成績状況調査 年2回 (4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 79.3% (5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 18回 C-Eランク 86.4% (6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 8回 授業力向上職員研修会 1回	評定 A B B C B B 総合評価 B (所見) おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業」ということがだいぶ生徒に定着してきており、授業に対する取組は、年々良くなってきている。それは授業に対するアンケートにおいても表れており、特に「授業満足度」「始業チャイムを守る」の項目は年々上昇している。また、漢字検定とマナトレにおいても、全校的な取組により着実に効果を上げている。	○日頃の教育活動の実践を行いつつ、重点目標を立てた計画的な教育活動の展開は素晴らしく、継続していく大切さを生徒に教え大きな成果を上げている。今後も続けて欲しいと思う。 ○授業に対する満足度が高いということはそれだけ生徒が授業を面白いと感じているのであり、意欲の向上に繋がると思う。 ○授業満足度がアップ、授業に対する取り組みも良くなっているので、基礎学力も向上していると考え。継続的な指導をお願いする。	○基礎学力については、まだまだ十分ではない。これからも計画的、継続的な指導が必要である。特に、個別指導の効果は大きく、教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。 ○「授業力向上なくして、学力向上なし」ということで、ICT活用も含めた内容で職員研修会を検討していきたい。
	(下位組織レベル) (1) 基礎学力の向上を行う (2) 教科指導の充実とレベルアップを行う	活動計画 (1)-1成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 (1)-2追試・補講を実施して強力に指導を行う。 (2) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 (3) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 (4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 (5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 (6)-1年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 (6)-2教職員研修計画を作成し指導力の向上を図る。	活動計画の実施状況 (1)-1 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 (1)-2 追考査、補講は計画的に実施した。 (2) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 (3) 5月、9月に実力テストを実施した。 (4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年11回実施) (5) 各ホームルームに3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、18回実施した。 (6)-1 観点別評価のある年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 (6)-2 12月に授業力向上に関する職員研修会を実施した。また、のべ8回の研究授業を行った。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成26年度 学校評価総括評価表

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
学力の育成	(全校レベル) (1)読書力の向上を図る。 (2)視聴覚機器の利用を図る。 (下位組織レベル) (1)読書活動の推進に努める。 (2)読書環境の充実に努める。 (3)「読書の日」を設け意識の向上を図る。 (4) 視聴覚機器の有効的な利用方法を研究する。	評価指標 (1)校内図書館の読書冊数の増加率 10%以上 (2)読書の生活化プロジェクトⅢにおける家庭での平均読書時間 10分以上 (3)蔵書数の増加率 5%以上 (4)図書室通信の発行 年6回以上 (5)「読書の日」の実施 年11回 (6)購入希望図書アンケートの実施 年10回 (7)視聴覚機器の利用に対する生徒の満足度 80%以上	評価指標の達成度 (1)校内図書館の読書冊数の増加率 -32% (2)読書の生活化プロジェクトⅢにおける家庭での平均読書時間 16.9分 (3)蔵書数の増加率 1% (4)図書室通信の発行 年11回 (5)「読書の日」の実施 年11回 (6)購入希望図書アンケートの実施 年3回 (7)視聴覚機器の利用に対する生徒の満足度 87.6%	評定 C A B A A B A	総合評価 B (所見) 読書活動についてのアンケートでは「図書室の現状や利用状況に満足しているか」という質問に対し80%以上の者が「満足している」「ほぼ満足している」と答えた。しかし「現行の『読書の日』の活動に満足しているか」という質問に対して「不満である」「やや不満である」と答えた者が30%を超えていた。『読書の日』の実施には多くの賛同を得ているものの、その実施方法について次年度以降は検討・変更の必要があると思われる。	○ 購入図書アンケートを年間5回実施し、生徒の希望に副った図書の購入をさらに進める。 ○ 生徒に課題を出し調べ学習を積極的に行う。 ○ 「読書の日」の実施方法を変え、図書委員の積極的な貢献を促す。(図書委員のおすすめ図書を紹介する等)。 ○ 購入希望図書のアンケート回数を増やし、生徒のニーズにあった図書をもう少し増やせないか。 ○ 図書室通信の発行が多くなり、またアンケートを基に本の購入ができていないことで生徒の読書意欲を高める。
		活動計画 (1)読書の日を毎月1回設定し、教職員に本を選定してもらう。 (2)家庭読書週間を設定し家庭への啓発を行う。 (3)生徒のニーズにあった図書を購入し蔵書の充実に努める。 (4)図書だよりを通して、新刊図書など最新の情報を提供する (5)推薦図書コーナーの充実に努める。 (6)購入希望図書アンケートをもとに購入した本のコーナーを設置する。 (7)視聴覚機器の有効的な活用方法を検討する。	活動計画の実施状況 (1)年11回実施できた。 (2)家庭読書週間を設定し1週間家庭での読書時間の調査を行った。 (3)購入希望図書アンケートを実施し生徒のニーズにあった本を購入できた。 (4)図書だよりを通して、最新の情報を毎月提供できた。 (5)司書おすすめの本を毎月紹介できた。 (6)購入希望図書アンケートをもとに購入できた本のリストや本の紹介文を図書だよりに掲載し生徒の興味を喚起しようとした。 (7)新しく購入した視聴覚機器を授業で活用し始めた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成26年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力の育成	(全校レベル) (1)基本的な生活習慣の確立を図る。 (2)生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。 (下位組織レベル) (1)保護者との連携を密にし、相互理解の上で指導の充実を図る。 (2)遅刻・欠席指導の徹底を図る。 (3)身だしなみ指導の徹底を図る。 (4)登下校指導を行う。 (5)交通安全指導の徹底を図る。	評価指標 (1)家庭への連絡実施回数 200回以上 (2)遅刻者・欠席者の増減率 -20% (3)身だしなみ検査延べ指導者数-20% (4)車両定期点検の実施回数 5回以上 (5)交通事故加害者数 0人 (6)いじめ問題件数 0件	評価指標の達成度 (1)家庭への連絡実施回数 187回 B (2)遅刻者・欠席者の増減率 52% C (3)身だしなみ検査延べ指導者数 28% B (4)車両定期点検の実施回数 5回 A (5)交通事故加害者数 0人 A (6)いじめ問題件数 0件 A	総合評価 B (所見) 1年生は遅刻者が多く、高校生(社会人予備軍)としての自覚が足りないように思われる。また、欠席数も多く自分の進路に対して悩みや、迷いから欠席数が増えているように思われる。身だしなみ指導では同じ生徒が繰り返し指導を受けることが多いが、減少している。 交通安全指導、登下校指導等交通安全についての知識やマナーについては向上しているように思われる。いじめに関しては、言葉のすれ違いなどで、友人関係が上手く作れない場面もあるが、大きな問題行動等は認められなかった。	○学校と家庭との連携は、教育活動を展開する上で最も重要なことである。特に欠席者の増加は教育に対する意識の低下が考えられるため、教育活動の展開は”感動とときめき”を与えられる授業展開をする必要がある。 ○身だしなみ指導は根気強く、継続的な指導こそが成果に繋がると思う。 ○交通事故は命に関わる問題であるため、安全運転の大切さを事ある毎に話をして、意識の高揚に努めて欲しい。 ○遅刻欠席が1年生に多いということだが、本校に入学した以上は早く目的意識を持たせるようにすることで、なお良くなるのではないかと。
		活動計画 (1)家庭訪問を実施する。 (2)-1遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。 (2)-2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し、多い者への改善指導を徹底する。 (3)毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底する。 (4)車両登録をさせ、学期初めと学期終わりに安全点検と学期毎に集会を行い交通事故を未然に防ぐ。 (5)-1免有者に対して視聴覚教材を用いた指導を行う。 (5)-2登下校指導計画を作成し指導を行う。(あいさつ、遅刻、服装) (5)-3全教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行う。 (6)-1いじめ問題の早期発見を行う。(アンケート調査の実施) (6)-2いじめ問題の早期解決を行う。(事後指導の確認)	活動計画の実施状況 1)家庭訪問を1年生は全員、2・3年生は昨年から継続して担任している者以外全員、1学期間中に行い、生徒の進路や通学路の危険箇所確認ができ、家庭との連携も深まった。 2)-1遅刻カードにより遅刻者の把握と指導を行った。 2)-2無断遅刻・無断欠席数調査を行い、改善指導を進めた。遅刻・欠席者の保護者との連絡を確実に取った。 3)毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施した。授業前・授業後に身だしなみを整える習慣が身についた。 4)車両登録・安全点検を学期初めと学期終わりに実施できた。学期毎に全校・学年集会で交通安全に関する注意を行った。 5)-1原付の免有者に対し、視聴覚教材を用いた安全運転啓発ができなかった。 5)-2指導計画により指導を行いあいさつの励行及び身だしなみ指導ができた。 5)-3通学路の危険箇所確認と交通マナーの向上が図れた。 6)-1毎学期アンケート調査を実施した。 6)-2アンケート調査の結果を報告し、各担任等を中心に問題解決を行った。		

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成26年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力 (ソーシャルスキル)の育成	(全校レベル) (1)教育相談活動の充実と生徒支援に努める (2)生徒一人一人を理解し、個々の生徒のニーズに応じた支援を進める (下位組織レベル) (1)教育相談体制(特別支援を含む)の充実を図る。 (2)生徒理解を進めるために各種検査を効果的に実施する。 (3)特別支援教育職員研修の充実を図る。	評価指標 (1)教育相談体制の充実 教育相談日を設けカウンセリングを行う。 30日(回)	評価指標の達成度 (1)教育相談体制の充実 教育相談日を設けカウンセリングを行う。 6日(回)	評定 B 総合評価 B (所見) 教育相談日の相談体制がうまく機能できなかったが、放課後の時間の有効な利用を再考する必要があると思う。 各種検査は非常に生徒の現状把握に役立っている。今後も継続して実施するべきだと考える。特に学校満足度調査QUは利用価値が非常に高いと評価している。現在、1年生と2年生で実施しているが比較することができるので実施方法としても有効である。 教員研修を7月と12月に開催したが、職員に感想を聞いたところ、12月の高校卒業後の福祉関係の制度等についての研修に好反応がみられた。毎年確認として福祉制度とその手立てについての研修は重要であると感じた。	○教育相談日のみならず、いつでもどこでも必要に応じて行うことが大切である。(時に命に関わる問題を抱えている生徒もいるため) ○学校満足度調査QUを1・2年生で実施をし、分析方法の研修を実施したい。 ○教員研修を7月と12月に実施予定で要望等の把握のためにアンケートを実施したい。
		(2)各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査QU)による生徒理解(各学年)	(2)各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査QU)による生徒理解(各学年)		
		(3)職員研修における職員の満足度アンケートで70%以上が満足	(3)職員研修における職員の満足度アンケートで75%が満足		
		活動計画 (1)教育相談日を設けカウンセリングを行う。次のことに配慮する。 ①教職員への親しみやすさ ②教職員への相談の満足 ③教職員との信頼関係 (2)-1各種検査を実施し生徒の困難さに気づき、問題を把握し、問題解決に向けて取り組む。 (2)-2それぞれの生徒の能力を把握し、基礎学力向上に向けた取組を行う。 (3)職員研修を1学期・2学期に実施する。	活動計画の実施状況 (1)教育相談日を設けカウンセリングを行った。教育相談日が機能できていない。 (2)-1各種検査を実施し、各担任に分析結果を提示した。生徒の生活状態と心の状態の差異に気づき、その後の生徒指導の参考になった。 (2)-2それぞれの生徒の能力を把握し、基礎学力向上に向けた取組を行った。個別での放課後指導など工夫して実施したホームルームがあった。 (3)職員研修を1学期・2学期に実施した。		

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった

平成26年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
人権意識の高揚	(全校レベル) (1) 道徳教育と関連させ人権尊重の精神を基盤とした教育活動に努める。 (2) 日々の生活や研修等を通じ、教職員自身の人権意識の向上に努める。 (下位組織レベル) (1) 人権教育ホームルーム活動の充実を図る。 (2) 「学校人権の日」の取組の充実を図る。 (3) 人権教育教職員研修の充実を図る。 (4) 道徳教育ホームルーム活動の充実を図る。 (5) いじめ防止に等に関する具体的な取組を行う。	評価指標 (1) 「人権学習ホームルーム活動」実施回数5回・生徒の理解度90%以上。 (2) 「学校人権の日」における生徒の充実度90%以上。 (3) 人権教育教職員研修・年3回以上実施。校外人権教育研修等に全教職員、1回以上参加。 (4) 道徳教育ホームルーム活動を年間2回実施。各学期、道徳教育週間5日間実施。 (5) 学校生活アンケート毎学期実施・生徒の満足度100%。	評価指標の達成度 (1) 「人権学習ホームルーム活動」実施回数5回・生徒の理解度91% (2) 「学校人権の日」における生徒の充実度89% (3) 人権教育教職員研修・年2回実施。校外人権教育研修等に教職員24名が参加。 (4) 道徳教育ホームルーム活動を年間2回実施。各学期、道徳教育週間5日間実施。 (5) 学校生活アンケート毎学期実施・生徒の満足度79.5%	評定 総合評価 B	○人権意識が高まったと感じている生徒が9割を超えたとの結果が出ていることは、指導に当たられた先生方の努力の賜だと思ふ。今後も人権課題を自分の問題として捉え、行動できる力を継続的に育成してもらいたい。 ○教職員の人権意識の向上や力量を高めるために研修の持ち方を工夫し生徒と日常的に人権について語れる雰囲気づくりを行う。 ○生徒の自主活動をさらに活発化させ、学校人権の日や人権学習ホームルーム活動時に中心的存在となり積極的に取り組むことのできる生徒を育成する必要がある。 ○人間としての在り方生き方に関する道徳教育を学校の教育活動全体を通じて行い、各課や各学年と連携しその充実を図る。
		活動計画 (1) 人権教育課とホームルーム担任との連携で教材を作成し、ホームルーム活動の充実と推進を図る。 (2) 人権委員会(生徒)が主体的に「学校人権の日」を運営する。当日の啓発の中心となるよう人権委員の事前指導を行う。毎回ふり返しシートを実施する。 (3) 講義形式による研修のほかに、ワークショップ形式や視聴覚教材等も利用した研修を行い充実を図る。 (4) 道徳教育の視点を全教職員に提示し道徳教育週間を実施する。 (5) いじめ未然防止・早期発見への取組を充実させるとともに、各学年・各課との連携により組織的な対応を図る。	活動計画の実施状況 (1) 学年団と連携して、ホームルーム指導案を作成し、活動の充実と推進を図った。 (2) 人権委員会が学校人権の日の司会進行を担当した。また、実施後の振り返りシートを毎回実施した。 (3) 人権教育職員研修会を年2回実施した今年度個人人権課題に追記された「拉致問題」について講師を招き研修を行った。その後、学校人権の日と連動させ、拉致問題のホームルーム活動を実施した。 (4) 学年団との連携で、道徳教育ホームルーム指導案を作成、学校全体でホームルーム活動の充実と推進を図った。また、道徳教育週間を実施した。	今年度の取り組みで人権意識が高まったと感じている生徒が9割を超えるなど、人権教育学習に対する生徒の理解度は高く、概ね目標を達成することができた。しかし、すべての生徒が積極的に活動し、人権課題を自分の問題として捉え、行動化できているとは言えない。 人権委員や人権研究部の生徒が各ホームルームで中心となって人権意識向上の啓発を行えるように、ボランティア活動や中高生人権交流集会に参加し自分の意見や考えを伝え、主体的に行動できる生徒が増えてきた。 道徳教育に関しては、教職員全員でその内容を共有し、道徳教育の重点目標を意識した教育活動を、組織的・計画的に実践することができた。また道徳週間を設定し、授業前には各教科担任より道徳教育に関する講話を頂いた。	

備考 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要

平成26年度 学校評価総括評価表

徳島県立三好高等学校 2-VII (特別活動課)

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と																	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策																	
生活力の育成	(全校レベル) (1)特別教育活動の充実を図る	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> <th>評定</th> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td>(1)ホームルーム活動満足度 80%以上</td> <td>(1)ホームルーム活動満足度87.8%</td> <td>A</td> <td rowspan="4">B</td> </tr> <tr> <td>(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 80%以上</td> <td>(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 88.4%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上</td> <td>(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 4.1回</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>(4)部活動の加入状況 80%以上</td> <td>(4)部活動の加入状況 72.5%</td> <td>B</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	(1)ホームルーム活動満足度 80%以上	(1)ホームルーム活動満足度87.8%	A	B	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 80%以上	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 88.4%	A	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 4.1回	C	(4)部活動の加入状況 80%以上	(4)部活動の加入状況 72.5%	B	<p>(所見) 全体的には概ね目標を達成できた。 体育祭では生徒会が新たな種目を考案し盛り上げた。前日祭(本年度より前夜祭より変更)では生徒会、実行委員を中心に様々な企画を立案し、多くの生徒が意欲的に参加し一定の成果を収めることができた。他の生徒会活動においても、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的・自治的な活動が展開できた。 部活動入部率は評価指標には達することができなかつたが、主な活動実績からも分かるように、熱心に継続した活動を続け、県下でも顕著な成績を収めることができています。</p>	<p>○部活動においては生徒数の減少がネックになっているため、部活動数を減らし、部員の確保に努める必要がある。 ○顕著な成績をあげている種々の活動を聞き、職員の適切な指導に感心している。 ○学校行事を通して生徒の自発的活動が活発になっているように考える。</p>	<p>○生徒会執行部は会長を中心に活動できているが、各種専門委員会の活動に開きがある。それぞれの役割を明確にし、自覚を持たせた活動をさせていきたい。来年度は、各種専門委員会を学期ごとに行う計画である。 ○部活動の加入率は低くはないが、体育部に所属する割合は低い。継続して活動できる生徒が年々減少してきており、団体競技の活動が困難になってきている。 ○学校行事については、学校や地域及び生徒の実態に応じて、各種類ごとに、行事及びその内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなど精選して実施していく必要がある。</p>
	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																		
(1)ホームルーム活動満足度 80%以上	(1)ホームルーム活動満足度87.8%	A	B																			
(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 80%以上	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 88.4%	A																				
(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 4.1回	C																				
(4)部活動の加入状況 80%以上	(4)部活動の加入状況 72.5%	B																				
(下位組織レベル) (1)ホームルーム活動の活発化を図る (2)各種専門委員会活動の推進を図る (3)生徒会活動・部活動の活性化を図る	<table border="1"> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>(1)よりよい人間関係づくりに努める。 (2)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。 (2)-2前夜祭実行委員会の活動の充実に努める。 (3)各種専門委員会の活動の充実に努める。 (4)部活動の充実に取り組む。</td> <td>(1)新学習指導要領に合わせたホームルーム活動計画を行い、1年42時間、2年43時間、3年40時間、年間計画に沿って行うことができた(2/24現在)。学年全体でホームルーム活動を行い、親睦を深めることもできた。 (2)生徒会執行委員会を年間21回暖房室にて開催し、各行事の計画・準備・運営にあたり、会長を中心に意欲的に活動することができた。 (3)人権3回・環境防災3回・保健7回・体育2回・図書12回・交通安全1回・進路1回と委員会活動に差がある。活動内容も不十分と感じる委員会が過半数を超えている。 (4)入部率(72.5%) 情報処理部(全国ワープロ競技会・全国情報処理競技会出場) 会計研究部(四国競技会出場) レスリング部(四国大会出場)</td> </tr> </table>	活動計画	活動計画の実施状況	(1)よりよい人間関係づくりに努める。 (2)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。 (2)-2前夜祭実行委員会の活動の充実に努める。 (3)各種専門委員会の活動の充実に努める。 (4)部活動の充実に取り組む。	(1)新学習指導要領に合わせたホームルーム活動計画を行い、1年42時間、2年43時間、3年40時間、年間計画に沿って行うことができた(2/24現在)。学年全体でホームルーム活動を行い、親睦を深めることもできた。 (2)生徒会執行委員会を年間21回暖房室にて開催し、各行事の計画・準備・運営にあたり、会長を中心に意欲的に活動することができた。 (3)人権3回・環境防災3回・保健7回・体育2回・図書12回・交通安全1回・進路1回と委員会活動に差がある。活動内容も不十分と感じる委員会が過半数を超えている。 (4)入部率(72.5%) 情報処理部(全国ワープロ競技会・全国情報処理競技会出場) 会計研究部(四国競技会出場) レスリング部(四国大会出場)																	
活動計画	活動計画の実施状況																					
(1)よりよい人間関係づくりに努める。 (2)-1生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。 (2)-2前夜祭実行委員会の活動の充実に努める。 (3)各種専門委員会の活動の充実に努める。 (4)部活動の充実に取り組む。	(1)新学習指導要領に合わせたホームルーム活動計画を行い、1年42時間、2年43時間、3年40時間、年間計画に沿って行うことができた(2/24現在)。学年全体でホームルーム活動を行い、親睦を深めることもできた。 (2)生徒会執行委員会を年間21回暖房室にて開催し、各行事の計画・準備・運営にあたり、会長を中心に意欲的に活動することができた。 (3)人権3回・環境防災3回・保健7回・体育2回・図書12回・交通安全1回・進路1回と委員会活動に差がある。活動内容も不十分と感じる委員会が過半数を超えている。 (4)入部率(72.5%) 情報処理部(全国ワープロ競技会・全国情報処理競技会出場) 会計研究部(四国競技会出場) レスリング部(四国大会出場)																					

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成26年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
生活力の育成	(全校レベル) (1) 環境教育の推進を図るために、三好高校エコスクールの推進と新学校版環境ISOの推進を実践する。 (2) 学校防災教育の推進を図るとともに、地域防災との連携を図る。 (下位組織レベル) (1) 校内外の美化活動を推進する。 (2) 省エネルギー・リサイクル運動を推進する。 (3) 防災学習の充実 (4) 防災訓練の充実 (5) 環境防災委員会を設置し教職員生徒の防災意識向上及び防災リーダー育成を行う。	評価指標 1) 新学校版環境ISOの総合評価レベル15以上。 ①美化活動・エコ活動の達成度 90% ②節電昨年度比 10%減少 廃油の公用車等への利用 100% 2) 学校防災の実践活動における実施時数 6時間以上 ①HRにおける防災・救急救命学習時間の実施 100% ②防災避難訓練実施 校内1回、地域との連携活動1回以上	評価指標の達成度 1) 新学校版環境ISOの総合評価レベル ①美化活動・エコ活動の達成度 90% ②節電昨年度比 10%減少 廃油の公用車等への利用 100% 2) 学校防災の実践活動における実施時数6時間 ①HRにおける防災・救急救命学習時間の実施100% ②防災避難訓練実施 校内1回、地域との連携活動1回以上	評定 A A A A A A A	総合評価 A	○エコスクール、新学校版環境ISOの推進、廃油を公用車の燃料に使用するなど大きな成果を上げている。 ○防災学習は今後一層重要となってくるので継続して欲しい。 ○評価指標の達成度がすべてA評定は素晴らしい。 ○防災避難訓練を年1回は事前連絡をせず実施してはどうか。 ○環境教育や防災学習にも積極的に取り組み成果が出ている。	○環境教育の推進のために、活動内容の啓発や報告をこまめに行い、学校全体で新学校版環境ISOの推進に取り組めるようにしたい。 ○学校防災活動を校内から校外に広げ、地域と連携した活動を目指したい。
		活動計画 1) ①-1校内外の清掃美化実践をする。 ①-2施設設備の補修等即対応する。 ①-3ゴミの分別100%を目指す。 ②-1エコキャップ・廃食油の回収と活用を実践する ②-2毎月の電気使用量についてデータを配布する。 ②-3こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。 2) ①-1防災学習をして意識を高める。 ①-2救急救命の適切な指導をする。 ②-1有事の際に対応できる防災避難訓練を計画。 ②-2災害発生時の生徒・職員の生命・身体の安全を確保を目的とした防災研修を実施する。 ②-3地域との連携を図り、合同訓練の実施を計画・実践する。	活動計画の実施状況 1) 環境教育の推進と新学校版環境ISOの推進 ①校内外の清掃美化実践が計画通りに実施でき、施設設備の補修等にも即対応できた。 ②廃食油の回収ができ、公用車への燃料として使用できた。 2) 学校防災教育の推進と地域防災との連携 ①防災学習で学んだことが、2月の地震において実践できた。 ②2月の地震を振り返り、防災計画の見直しと、職員研修をすることができた。防災クラブが活動を開始し、池田町の社会福祉協議会の支援により防災研修を実施できた。	1) 新学校版環境ISOの推進について、年度当初の計画を実践できた。 ①補習や農場当番によりすべての生徒が参加することはできなかったが、毎月の活動は実施できた。 ②廃油の活用が定着している。 2) 学校防災教育の推進については計画とおりに実践できた。 ①いのちを大切にする学習として、教職員・生徒共に真剣に取り組み、日々の訓練の大切さを学んだ。 ②外部より講師を招き、防災グッズ等の制作に取り組めた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成26年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1)生徒一人一人が健康で安全な学校生活をおくる保健厚生への取組の充実を図る。 (下位組織レベル) (1)個々の健康管理を支援する。 (2)健康教育の充実に努める。 (3)性に関する指導を推進する。	評価指標 (1)保健室利用状況 前年度以下 (2)保健関係ホームルーム活動 各学年・年2回以上 (3)保健だよりの発行 年12回 (4)①健康状態の把握 90%以上 ②疾病やけがの手当等の理解度 90%以上 (5)性に関する指導の理解度 90%以上 (6)救命救急法等の研修実施 年1回以上	評価指標の達成度 (1)保健室利用状況 355件 (前年度347件) (2)保健関係ホームルーム活動 各学年2回実施 (全学年対象1回含む) (3)保健だよりの発行 年13回 学校保健委員会だより発行 1回 計14回 (4)①健康状態の把握 87.4% ②疾病やけがの手当等の理解度 88.9% (5)性に関する指導の理解度 95.4% (6)救命救急法等の研修実施 年2回 教職員対象1回 部活動性対象1回	評定 C A A B A A	総合評価 B (所見) 評価指標関連については、十分に達成できなかった。健康教育については、講演会やホームルーム後のアンケートで「よく理解できた」「日常生活でも活かしていきたい」という感想が多くあり、生徒たちに様々な健康課題について身近に考えてもらうきっかけとなった。しかし、学んだことを実践に移すことができていない生徒はまだ少なく、継続的な指導の必要性を感じている。 保健室の利用状況についても、生活習慣の乱れが心身に及ぼす影響への理解が実践へ結びついていないことの現れであると感じる。 また、今年度は心の健康とインターネット利用についてのアンケートをとり、その結果を学校保健委員会で協議したり、ホームルーム活動の題材として利用したりと、生徒の実情に合わせた活動ができた。今後も生徒の健康課題を的確に把握しながら学校保健活動を展開させる必要性を感じた。	○高校時代は心と体の発達がアンバランスになることが多く、日頃から健康状態の把握は大切である。 ○救命救急は命に関わる重要な事項であるため、生徒自身が自らAEDを使用できる実践研修を行う必要性を痛感している。 ○保健室の利用目的を的確に把握しておくことは大切と思う。 ○保健室の利用が増えた原因をどう捉えているのか。 ○保健室利用については、全教職員を共通理解を図りながら、指導をすすめていく。 ○救命救急法の研修については、引き続き実施するが、マンネリ化しないよう検討する必要がある。また、多様化する生徒の健康課題や突然の事故に全教職員が対応できるようにマニュアル等を再検討したい。
		活動計画 (1)生徒の実態に応じた保健指導を行うとともに、保健室の利用について指導を行う。 (2)健康教育ホームルーム活動、性に関するホームルーム活動を計画的に実施する。 (3)学校ホームページや生徒への配布物を通して、健康に関する情報発信を行う。 (4)生徒の健康課題や保健室の実態を保健指導に生かし、生活の改善を図る。 (5)各学年において系統的な性に関する指導を実施するため、年間計画を策定し、関連する各教科と連携を図る。 (6)救命救急への適切な指導を行う。 (1)~(6)学校保健・安全計画を作成し、計画的な指導を行う。	活動計画の実施状況 (1)全教職員へ保健室利用について周知することで共通理解を図った。同様に、新入生オリエンテーションでの全体指導、保健室来室者へは個別指導を行った。 (2)ホームルーム活動において、熱中症予防や性・心に関すること等、ホームルーム担任の指導に加えて、外部講師による講演会の実施、養護教諭による心の健康教育も実施できた。 (3)保健だよりを毎月1回発行、また感染症等の流行時には号外を発行するなど、継続的に情報発信をすることができた。 (4)心の健康とインターネット利用に関するアンケート結果について、学校保健委員会を開催し、教職員や保護者と生徒が協議した。話し合われた内容は「学校保健委員会だより」で生徒や教職員に周知することができた。また、アンケート結果を日常の保健指導へも活かすことができた。 (5)性教育委員会を開催し、学年や各教科と連携を図り、性に関する年間指導計画を策定した。 (6)AEDを用いた心肺蘇生法の教職員研修では、手順や手技を再確認するだけでなく、教室で様々な場面を想定してのシミュレーション研修を実施した。また昨年度に引き続き、部活動所属生徒を対象に救命救急講習を実施することができた。 (1)~(6)年度当初に学校保健計画と学校安全計画を策定し、全教職員で共通理解を図るとともに、計画的かつ継続的な指導を行っている。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成26年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
キャリア教育	(全校レベル) (1)一人一人の生徒の能力適性を生かした進路の実現のための進路指導・キャリア教育を推進する。 (下位組織レベル) (1)生徒の進路希望の把握と進路意識の高揚に努める。 (2)進路情報の提供を丁寧に継続的に行う。 (3)事業所・進学先・ハローワーク・市役所等との連携に努める。 (4)生徒の学力の実態把握に努め、学力向上を推進する。	評価指標 (1)3年生進路内定率 100% (2)2年生終了時の進路希望未定者 0 (3)進路希望調査 年間2回以上 (4)面接回数 一人あたり3回以上 (5)進路ホームルーム活動 年間3回 (6)保護者への情報提供 3回以上 (7)進路説明会の満足度 80%以上 (8)事業所訪問 70社以上 (9)進路補習への参加率 80%以上 (10)マナトレ実施状況 ①実施回数 15回以上 ②7級合格率 80%以上 (11)効果的な進路講演会の実施 3年生 3回 (4, 5, 12月)	評価指標の達成度 (1)3年生進路内定率 86% (2)2年生終了時の進路希望未定者 0 (3)進路希望調査 年間 2回 (4)面接回数 一人あたり 3回以上 (5)進路ホームルーム活動 年間 3回 (6)保護者への情報提供 26回 (7)進路説明会の満足度 85% (8)事業所訪問 30社 (9)進路補習への参加率 85% (10)マナトレ実施状況 ①実施回数 27回 ②7級合格率 86.4% (11)効果的な進路講演会の実施 3年生 8回 (4,5,6,7,8,12,3月)	評定 B A A A A A C A A A	総合評価 B (所見) キャリア教育課を担当して2年目。昨年度は就職先の会社・企業との繋がりを第一に考え行動した外向きの活動。今年度は外部との繋がりを校内に生かす取り組みに重点を置いた内向きの活動。特に、大人になりきれない子どもたちの精神的成長と意識改革に重点を置いた。具体的には講演会を充実させ、自分の将来を描きやすくするよう心掛けた。3年団との意見交換も昨年度以上に充実し、スピード感と内容のある取り組みになったと感じている。基礎学力強化は国語科の校内漢字テストと進路課の数学マナトレを両輪としているが、先生方の協力を得てよい結果につながった。さらに自主的に学習する生徒も増え、最大11人の3年生が進路室前の廊下で意欲的に取り組み、就職や進学でよい結果を残した。そして、それが手本となり、現在2年生2名が部活動終了後7時から8時まで毎日学習している。今回Bとしたのは事業所訪問数が大幅に減ったため。	○厳しい社会状況の中で生徒の進路を保障することは大変なことだと思う。できる限り自らが3年間学んだ知識を生かせる進路の確保が重要である。そのことが生徒に夢と勇気を与え、力強く人生を歩む力になると思う。 ○事業所訪問は非常に大切なこと。企業との繋がりを深めて欲しい。 ○各項目とも成果が認められ、日頃から大変よく取り組まれていることがわかる。 ○一人でも多く地元で就職して、地域を支える人材に育てて欲しいと願っている。 ○インターンシップ等を取り入れてみてはどうか。	○今後、生徒数が減少し学校の規模が小さくなる。その中で「三好高校らしさ」を作り育てていくために何をすべきか考える必要がある。 ○キャリア教育課としては、第一に出口の保証。つまり、生徒と保護者の望む進路実現に向けて最大限の支援をしていく。第二に、そのために、三好高校ブランドを作っていく。その基盤が三好高校スタンダードである。 ○挨拶ができて、適切な言葉遣いができ、身だしなみもきちんと整っている生徒に基礎学力と専門の知識・技術を身につけさせることを課題とする。
		活動計画 (1)個人・三者面談等を積極的に企画。3学年団との協力を密にする。 (2)面談の結果から進路指導の基礎資料を作成する。 (3)定期的に進路希望調査を行う。 (4)効果的な面接方法についての資料提供等を行う。 (5)進路ノートを活用し3年間の体系的なホームルーム活動を実施。また効果的な資料も提供する。 (6)進路ニュース等を配布し生徒および保護者へ進路情報を提供する。 (7)進路説明会の資料を充実させる。 (8)これまでに関係のあった事業所同様、新規開拓にも力を入れる。 (9)公務員模試・適性検査等を実施し進路意識を高める。 (10)日々の宿題でマナトレを配布。 (11)適切な時期に適切な話をしてもらえる講師を探し、生徒の心に訴えるような講演会を企画する。	活動計画の実施状況 (1)3学年担任が積極的に面談計画を立て生徒理解と指導に努めた。 (2)個人面談の結果を表にし学年団に配布。管理職にも回覧。 (3)各学年2回実施。 (4)進路ニュースやSHRネタなど話のきっかけとなる資料を提供。 (5)進路ノートに即したホームルーム活動を基本としながら、現状に合わせた資料を補足した。 (6)進路ニュース等を配布し、家庭で進路について話す機会を作った。 (7)分かり易い資料提供を心掛けた。 (8)今年度は就職状況の好転もあり新規開拓は積極的に行っていない。 (9)公務員も市を2回実施。2・3年生のべ72名が受験した。 (10)1学期日々の学習を実施した。 (11)3年生の講演会を8回企画。3学年団や管理職と協議し適切な時期に適切な講演会を実施した。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成26年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
キャリア教育	(全校レベル) (I) 特色ある農業教育の推進を図る。 (2) 地域産業の担い手育成に関する地域連携を推進する。 (下位組織レベル) ①地域連携の推進を図る ②教職員の資質向上を図る ③資格取得の推進を図る ④農業クラブ活動の活性化を図る	評価指標 (1) 特産品の開発と普及 (5品目以上) (2) 農業科授業研修の実施 年間3回 (3) 学校開放講座参加者の満足度 90%以上 (4) 農業技術検定合格率 80%以上 (5) 学校農業クラブでの成果 県予選3種目以上入賞 (6) 地域と連携した取組の推進 年間40回以上 (7) 授業に対する生徒の満足度 80%以上	評価指標の達成度 (1) ホンモロコ・ホンシメジ等で推進 (2) 2回実施 (3) 参加者の満足度 100% (4) 43.8% (5) 県予選で3人が入賞したが、その内最優秀は1名のみ (6) 年間47回実施 (2月末現在) (7) 生徒の満足度 96.3%	評定 B B A C B A A	総合評価 B 地域との連携においては科目「地域貢献」や「産官学連携実学モデル事業」を活用し、現場実習、販売実習、開放講座、体験入学、異校種間連携等一定の成果を収めることができた。 ホンシメジやホンモロコにおける地域ブランドや、特産品の研究においては、課題が多く、大きな進展が見られていない部分もあり、今後の継続研究が必要とされる部分である。 資格取得については、補習の充実・生徒意識の高揚を図る必要がある。	〇特色ある教育は従来から言われてきたが、一石二鳥でできるものではない。従って適地適作を基本においた農業にも目を向けると、意外にも面白い課題が見つかるのではないだろうか。 〇今まで行ってきた地域連携の中で、経済性の高い作目を選出して集中的に継続していくことが大切だと考える。 〇地域貢献や地域との繋がりを大切にしていることが大変素晴らしい。 〇一人でも多く地元に残って、農業や林業経営ができるよう指導をして欲しい。 〇林業では人材が不足している現状がある。一人でも多く林業に興味を持つ生徒を育てて欲しい。	〇農場運営については、年度当初の適正な農場運営計画と教育計画に基づき、実践しなければならない 〇教職員の資質向上、生徒の課題解決については、PDC Aサイクルのもと、継続して実施しなければならない。 〇26年度より実施される学校設定科目「薬用植物学」については、いかに地域と連携し、地域の活性化につなげていくか検討する必要がある。
		活動計画 (1)-1ハッサクに関する商品開発 (1)-2ホンモロコ・ホンシメジの普及活動を推進する (1)-3サギソウの増殖活動を推進する (1)-4薬草を利用した商品開発 (2) 教職員の資質向上を目的とした授業研修を実施する (3) 学校開放講座の実施により、地域連携・開かれた学校作りを推進する (4) 農業技術検定に対応した補習体制を構築する (5) 生徒の意識の高揚を図り、学校農業クラブ活動を活性化する (6) 科目「地域貢献」の適正な活動計画と内容の充実を図る。 (7) 実習ノートを活用し、実習科目の充実を図る	活動計画の実施状況 (1)-1地元のホテルなどと連携し、商品化を図ることができた。 (1)-2ホンモロコは地域の養殖農家(5戸)へ、ホンシメジは推進協議会を開催するなど普及に努めた。 (1)-3十分な活動には至らなかった (2) 授業研修は、年間2回の実施に止まった。 (3) 参加者のニーズに対応した開放講座を実施することができた。 (4) 週2回補習を実施したが、合格率が大幅に低下した。 (5) 意見発表で、四国大会に出場するなど一定の成果を収めることができた。 (6) 年間47回地域と連携した取組を実施することができた。 (7) 販売実習・開放講座等の取組を専門科目に繋げることができた。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成26年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
キャリア教育	(全校レベル) (1)生徒一人ひとりの理解力と興味関心に応じた授業の工夫により生徒の学習に対する意欲を高める。	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価 B (所見) 3種目以上1級合格者は3年生21名中8名で、うち5種目1名、4種目2名、3種目5名であった。2年生は4種目1名、3種目4名の計5名が既に3種目以上の1級を取得している。また、昨年度より国家資格の合格率が高くなり、情報ビジネス科に学科再編し、情報処理教育に特化した成果が現れてきた。先生方の日々の創意工夫した授業展開、放課後の熱心な粘り強い指導が功を奏したと言えよう。 各種競技会出場に向けても熱心な指導により、左記のような優秀な成績を得ることができた。生徒数減少の中、厳しい状況を克服しての結果である。次年度以降も期待したい。	○各種競技会への参加が生徒の意欲と関心を高め、その結果として検定や資格の取得に連動し、生きる力の育成に大きな成果を上げていることは本当に素晴らしい。 ○県下一の情報ビジネス科。先生方の努力に頭が下がる。
		(1)授業評価による生徒の授業満足度 85%以上	(1)授業評価による生徒の授業満足度 96.4%	A		
		(2)ワープロのタッチメソッド操作 100%	(2)ワープロのタッチメソッド操作 100%	A		
		(3)3年生の3種目以上1級検定合格率 40%以上	(3)3年生の3種目以上1級検定合格率 38.1%	B		
		1・2年生の各検定合格率 90%以上	1・2年生の各検定合格率 87.2%	B		
	(4)販売実習の実施 10回以上	(4)販売実習の実施 9回	B			
	(5)競技会の全国大会出場 3大会	(5)競技会の全国大会出場 2大会 ワープロ団体 情報個人	B			
(下位組織レベル) (1)商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる	活動計画	活動計画の実施状況				
(2)各種検定・資格の取得を積極的に推進する。	(1)生徒の実態にあった授業を展開する。 (2)オリエンテーションで生徒の意識を高め、効果的な指導を行う。始業時、終業時における挨拶の徹底を図る。 (3)検定前補習や個別指導を適宜行う。 (4)校内販売所、東西祖谷での実習に加えて池田商店街への出店を計画実行する。 (5)各種競技会に向けて選手の競技力向上を図る。	1) 習熟度別やT.Tの授業を展開することにより、きめ細かい指導が実施できた。 2) 毎時間、服装や挨拶を通してビジネスマナーの向上を目指したが、十分に徹底できたとはいえない。 3) 国家資格であるITパスポート試験に7名合格した。 4) 校内販売や東西祖谷出張販売は計画通り実施でき、地域貢献に努めた。(池田出張販売は降雪のため中止) 5) ワープロ競技会に於いて、県大会団体6連覇、個人1位～3位、四国大会団体2位、個人3位という輝かしい成績を収め、本年も全国大会に出場した。また、情報処理競技会では、個人第1位の成績を収め本年も全国大会出場を果たした。さらに、電卓競技会に於いても、四国大会に県代表として2名本校生が出場できた。			○上位級取得と、販売実習等による地域貢献の両立ができるよう工夫する。 ○外部団体主催検定の合格数アップと、競技会の入賞を目指す。 ○出張販売や校内店舗の充実に努める。	
(3)実践的・体験的学習を充実させる						

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成26年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) (1)教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を高める (下位組織レベル) (1)小中学校へ情報発信を行う。 (2)地域社会との連携による諸行事に参加し学校の活性化に取り組む。 (3)学校Webページを活用して情報発信に努める。 (4)PTA活動の活性化に取り組む。	評価指標 (1)学校Webページの情報発信状況 年間60回以上 (2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 20回以上 (3)文化祭(楓祭)での来校者の満足度 70%以上 (4)学校開放講座の参加者の満足度 100% (5)保護者の学校行事等への参加状況 年間100人以上	評価指標の達成度 (1)学校Webページの情報発信状況 年間50回 (2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 27回 (3)文化祭(楓祭)での来校者の満足度 89.4%以上 (4)学校開放講座の参加者の満足度 100% (5)保護者の学校行事等への参加状況 年間139名	評定 B A A A A	総合評価 B (所見) PTA活動においては、役員・保護者への負担も考慮し、例年並みの内容であったが、役員の方々の、積極的な取組により、楓祭・体育祭など充実した活動内容となった。 また、専門高校の特性を生かした地域連携など、新聞、テレビなど、メディアで報道された回数も多く、HPなどとあわせ、本校な活動を十分に発信することができた。 70周年・高校再編に向けてPTA活動のあり方について、検討必要がある。	○学校開放講座や学校祭等で学校を地域社会に開き、多くの人々に来てもらうことで様々な意見や協力が得られる。このことが生徒に生きがいややりがいを与え、学校生活の充実にも繋がるため一層の取り組みを望みたい。 ○PTA活動、同窓会活動、母校思いの取り組み、地域への学校開放等大変有難く思っている。 ○三好高校で取り組まれている素晴らしい教育活動が地域に十分に伝わっていないと感じることがあるので、広報活動に力を入れてもらいたい。	○70周年・高校再編に備え、PTA活動、HPのあり方について、検討する必要がある。
		活動計画 (1)担当者との連携を図る。 (2)-1幼稚園、小学校に食農教育の教材の提供を行う。 (2)-2地域の文化祭等の催し、行事に参加をして本校教育の理解を図る。 (3)楓祭において、販売・展示の充実を図る。 (4)体験入学、開放講座などを実施して本校教育への理解を図る。 (5)役員会等の活性化を図り、参加者の増加を進める。	活動の成果・課題 (1)昨年度と比較し、生徒の活動を保護者・地域に十分発信できなかった。 (2)-1科目「地域貢献」を活用し、異校種との交流を深めることができた。 (2)-2地域のイベント等に積極的に参加し、販売・パネル展示等とおし本校教育活動を広報できた。 (3)生徒数等の減により、例年並みの内容にとどまった。 (4)地元中学生を招いての体験入学、地域住民を対象とした開放講座ともに、当初の目的を達成することができた。 (5)例年どおりの実施内容であった。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要